

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 189 2024. 6. 1

日本教育情報学会 運営本部事務局
〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1
大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室
E-mail: jsei@jsei.jp http://jsei.jp/home/

日本教育情報学会 第 40 回年会の開催に向けて

第 40 回年会は 8 月 24, 25 日の開催です。節目となる 40 回にあたり、この 10 年を振り返りつつ、次の 10 年を見据える機会としたいと考え、テーマを「AI/DX 時代の教育情報学を考える —「近未来」の学びの姿とその本質—」としました。AI や DX をキーワードとする新しい動向について検討するとともに、目先だけにとらわれずに教育の本質を追究することも忘れないようにしたいという想いを込めたものです。

ChatGPT をはじめとする生成 AI をめぐる展開は、これまでにないほど急激なものです。教育の世界においても大きな影響を及ぼしています。会員の皆さまも、生成 AI をどう扱っていくかについて検討・対応に追われているのではないのでしょうか。確かに文部科学省がガイドラインを策定するなど、国レベルでも取り組みは進められているところです。しかし、文部科学省のガイドラインも「暫定的」なものとして位置づけられています。「暫定」ではなくなるころには、おそらく生成 AI も次の段階へと進化しており、ガイドラインの改定が求められるかもしれません。ガイドラインは常に「暫定版」とならざるをえないといえるでしょう。

考えてみれば、生成 AI を含む AI に限らず、情報技術は、それが進歩を続けるものである以上、教育における対応は後追いにならざるを得ない面があることとなります。しかし、後追いに留まらず、いわば先取りをした取り組みが求められるのではないのでしょうか。すなわち、これからの教育に求められる情報技術とはどのようなものか、その在り方を議論し、提案し、実践していくこと——それこそが本来の DX と呼ぶべきものだと考えます——が、いまの時代だからこそ必要なのではないのでしょうか。

年会には、さまざまな専門分野を持ち、立場・視点も興味・関心も経験・知見もいろいろな研究者・実践者・関係者が集まります。多様性に基づいた議論から生まれるものにこそ、これからの時代を切り拓くヒントがあると信じたいと思います。教育情報学をめぐる研究発表に加え、基調講演、シンポジウム、懇親会を通して、さらには協賛企業による展示などによって、最新の動向・展望を把握・検討しつつ、教育の本質について議論・考察する機会となることを願っています。

8 月下旬の東京は残暑が厳しい頃かと思いますが、お越しいただく意義のある大会となるように努めたいと思います。大勢の皆さまのご参加をお待ちしています。暑さに負けない熱い議論が繰り広げられることを願っています。年会の運営にあたって、ご理解、ご協力をあらためてお願いする次第です。

第 40 回年会実行委員長 野末 俊比古（青山学院大学）

第40回年会開催要項

- ・開催日：2024年8月24日（土）・25日（日）
- ・会場：青山学院大学（青山キャンパス）17号館5階
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
※懇親会・見学会以外は、すべての会場が17号館5階となります。
※会場へのアクセスについては「会場アクセス」の項目をご確認ください。
- ・事務局：日本教育情報学会第40回年会実行委員会
〒150-8355 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学教育人間科学部教育学科野末研究室内
03-3409-7906（教育学科合同研究室）
- ・主催：日本教育情報学会
- ・共催：青山学院大学教育人間科学部附置教育人間科学研究所（申請予定）
- ・後援：東京都教育委員会、渋谷区教育委員会（いずれも申請予定）
- ・年会ウェブページ：<http://jsei-nenkai.jp/>
※本要項からの変更・更新については、上記ページ（および学会ウェブサイトなど）にて随時、案内します。適宜、ご確認をお願いします。
- ・スケジュール

1日目：2024年8月24日（土）	
10:00～12:00	課題研究発表 教育資料研究会（1） A会場（17501教室） 特別支援教育AT研究会（1） B会場（17502教室） IR研究会（1） C会場（17503教室） ICT活用研究会（1） D会場（17504教室） グローバル教育研究会（1） E会場（17505教室） デジタルアーカイブ研究会 F会場（17506教室） 「AIと教育」研究会 G会場（17507教室） プログラミング教育研究会 H会場（17508教室）
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会 17509教室
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式 17510教室
13:45～14:15	研究会活動報告 17510教室
14:30～15:30	基調講演 17510教室
15:45～17:45	シンポジウム 17510教室
18:00～	懇親会 アイビーホール 1F「茶珈堂」

2日目：2024年8月25日（日）	
9:30～12:00	課題研究発表 教育資料研究会（2） A会場（17501教室） 特別支援教育AT研究会（2） B会場（17502教室） IR研究会（2） C会場（17503教室） ICT活用研究会（2） D会場（17504教室） グローバル教育研究会（2） E会場（17505教室） 教育技術研究会 F会場（17506教室） 一般研究発表 情報教育（1） G会場（17507教室）
12:00～13:00	昼食・休憩
13:00～16:00	一般研究発表 教育方法 A会場（17501教室） 教材開発 B会場（17502教室） 教育実践（1） C会場（17503教室） 教育実践（2） D会場（17504教室） デジタルアーカイブ・学習評価 E会場（17505教室） 情報教育（2） F会場（17506教室） 情報教育（3） G会場（17507教室） オンライン オンライン

- ・上記のほかに「青学つくまなラボ」（<https://sites.google.com/view/tukumanalab/>）の施設見学を予定しています。詳細は決まり次第、年会ウェブページなどで案内します。
- ・懇親会以外はすべて大学17号館5階の教室が会場となります。協賛企業の展示も同フロアのラウンジ等にて行います。

基調講演（8月24日（土）14:30～15:30）

教育と情報をめぐる「これまで」と「これから」（仮題）

講演者：杉本 卓（青山学院大学副学長・教育人間科学部教授）

教育と情報について研究する教育情報学の特色は、その幅広さにある。基調講演では、本大会の趣旨を踏まえ、俯瞰的な視点から、教育情報学の「これまで」を振り返り、「これから」を見据えることで、その現在地を知る機会としたい。（詳細は、年会ウェブページなどで案内します。）

シンポジウム（8月24日（土）15:45～17:45）

「近未来」の学びの姿を探る —AI/DX時代の教育情報学—（仮題）

登壇者：安達 一寿（学会会長／十文字学園女子大学）、各研究会代表者

コーディネーター：齋藤 陽子（学会副会長・研究会委員会委員長／岐阜女子大学）

本シンポジウムでは、本大会の趣旨を踏まえ、AIやDXをキーワードとしつつ、近未来の学びの姿について考えていく。教育情報学（会）の「よさ」を活かして、多様な観点から議論を深めていきたい。（詳細は、年会ウェブページなどで案内します。）

課題研究発表〔一日目〕（8月24日（土）10:00～12:00）

発表申込み時の内容に基づいています。所属は、学生・非常勤を含めて学校名・企業名（株式会社などは省略）までとし、複数所属がある場合は一つのみとしています。（課題研究発表〔二日目〕および一般研究発表に関しても同様です。）

■これからの時代の教育資料の構築と活用について

教育資料研究会

8月24日（土）10:00～12:00 A会場（17501教室）

コーディネーター：長谷川春生（富山大学）、齋藤陽子（岐阜女子大学）

- ・ 1AA1 幼稚園教諭の資質向上を目指すキャリアステージにおける講座の在り方の研究Ⅲ
—ハイブリット型授業デザインと自律的な学びの環境整備—
齋藤陽子（岐阜女子大学）、久世均（岐阜女子大学）、
眞喜志悦子（岐阜女子大学）
- ・ 1AA2 授業分析のための計測用学習フローチャートと行動カテゴリーの開発
—サブシステムとAI文字起こしツールを活用して—
眞喜志悦子（岐阜女子大学）
- ・ 1AA3 保育教諭を目指す学生と領域「表現」での感性育成の実践
—自分のイメージを表現する力の分析—
堀田彩乃（名古屋文化学園保育専門学校）、齋藤陽子（岐阜女子大学）
- ・ 1AA4 独立系書店を中核としたコミュニティ形成の意義と可能性
田島萌乃（相模女子大学）
- ・ 1AA5 観光資源の調査と多言語によるメタバースでの発信を行うプロジェクト型学習の効果
横山隆光（岐阜女子大学）、櫛彩見（岐阜女子大学）、林知代（岐阜女子大学）、
瀬戸敦子（岐阜女子大学）
- ・ 1AA6 地域企業と連携しドローンを活用した小学校プログラミング教育の実践と評価
長谷川春生（富山大学）、成瀬喜則（富山大学）
- ・ 1AA7 保育実習（保育所）における実習懇談会に関する研究
—学生（実習生）・保育者養成校教員・保育者養成実践者（保育現場）の三者の
思いが繋がる実習懇談会の在り方を見つめて—
高村真希（北陸学院大学）
- ・ 1AA8 メタバースに設置したマナーを学べる教材の効果
—モーションキャプチャーで作成した日本の温泉地でのマナー—
青木稀愛（岐阜女子大学）、左高結衣（岐阜女子大学）、
横山隆光（岐阜女子大学）

■特別支援教育の「近未来」の学びの姿とその本質

特別支援教育 AT 研究会

8月24日(土) 10:00~12:00 B会場(17502教室)

コーディネーター：小川修史(兵庫教育大学), 大杉成喜(皇學館大学)

- ・1AB1 障害者のスポーツ参加に向けたeモルックの開発
伊藤海都(皇學館大学), 大杉成喜(皇學館大学)
- ・1AB2 重度身体障害者の視線入力等を活用したeSpots参加(7)
—AIM+ボタン操作によるPCゲーム操作の発展—
大杉成喜(皇學館大学), 梶山紘平(かじだすTubeチャンネル),
吉村隆樹(パソボラ・こころのかけはし),
引地晶久(できわかクリエイターズ), 金森克浩(帝京大学),
新谷洋介(金沢星稜大学), 伊藤史人(島根大学), 伊藤海都(皇學館大学),
大江泰聖(皇學館大学), 庄司衣吹(皇學館大学), 福井陽之(皇學館大学)
- ・1AB3 発達障害児に対するICT導入の事前検討の促進を志向した学習支援システムの開発
小川修史(兵庫教育大学), 辻村実央(兵庫教育大学),
細川光生(兵庫教育大学), 松岡美苗(兵庫教育大学)
- ・1AB4 causal SW:電子工作応用教具作成用の素材を提案
—タブレット教材は苦手児童にも, お手軽調理で個別最適化—
篠田幸雄(情報科学芸術大学院大学)
- ・1AB5 デジタル・アクセシビリティを対象とした学習支援システムの開発に向けた特性およびニーズの体系化
辻村実央(兵庫教育大学), 小川修史(兵庫教育大学)

■AI/DX時代の大学を支えるIRの探求

IR 研究会

8月24日(土) 10:00~12:00 C会場(17503教室)

コーディネーター：白鳥成彦(東京都市大学), 今井匠太朗(東京工業大学)

- ・1AC1 中退率改善における時間とレベルの違う指標を結びつけるモデルの作成
白鳥成彦(東京都市大学)
- ・1AC2 IRにおける「データ」の提示方法と「情報」の価値
—データ利用の目的と分析・可視化・報告のあり方による情報量の違い—
西出崇(小樽商科大学), 大石哲也(九州工業大学)
- ・1AC3 Edinformaticsの視点から探るIRとライフサイエンスの融合
—高等教育機関における教育の質向上とは—
高松邦彦(東京工業大学), 松本清(東京工業大学),
今井匠太朗(東京工業大学), 稲倉恒法(東京工業大学),
森雅生(東京工業大学)
- ・1AC4 教養・SPIのe-learning systemを軸としたIR分析
—大学全過程の最適化を目指したIRデータの活用—
矢崎久(松本大学), 室谷心(松本大学), 滝澤毅(松本大学)

- ・ 1AC5 データの整合性が保証される圏論的データベース
稲倉恒法（東京工業大学），今井匠太朗（東京工業大学），
高松邦彦（東京工業大学），松本清（東京工業大学），森雅生（東京工業大学）

■「近未来」の学びを支える ICT を活用した教育

ICT 活用研究会

8月24日（土）10:00～12:00 D会場（17504教室）

コーディネーター：河野敏行（岡山理科大学），
鍋谷正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

- ・ 1AD1 デジタル・シティズンシップ動画教材の検討
豊福晋平（国際大学 GLOCOM）
- ・ 1AD2 小型月着陸実証機「SLIM」への疑問から始めたオンライン授業
—オンラインゲストと教師・子どもたちが創り上げる共創授業—
公文美貴（愛知県常滑市立大野小学校），石橋かおり（愛知県常滑市立大野小学校），
神野奈津子（愛知県常滑市立大野小学校），筒井洋一（大谷大学），
坂本保代（マイクロブレイン）
- ・ 1AD3 大学における ICT を活用した授業の設計と評価に関する一考察
—アクティブラーニングと多様な評価を行った実践から—
両川晃子（山梨学院大学）
- ・ 1AD4 ICT を活用して日本古来の数理文化を世界へ売る —外国人観光客の日本文化体験講師育成—
上野真弓（家庭教育力），久保祐子（P-bond）
- ・ 1AD5 Web エディタを活用した教育コンテンツの開発 —p5.js を活用して—
河野敏行（岡山理科大学）

■AI 時代における教育・研究のグローバル化の在り方を模索する

—「近未来」を見据えたグローバル人材育成に向けて—

グローバル教育研究会

8月24日（土）10:00～12:00 E会場（17505教室）

コーディネーター：清水義彦（富山県立大学），陳那森（関西国際大学）

- ・ 1AE1 日本語スピーチコンテストの立ち上げと課題
—第二回天津市日本語スピーチ大会を例に—
前川友太（河北工業大学）
- ・ 1AE2 医学翻訳における翻訳三要素バランス分析 —『胃と腸』の翻訳の心得—
袁広偉（中国曲阜師範大学），韓慧（中国曲阜師範大学）
- ・ 1AE3 中国における介護資格の変遷
韓慧（中国曲阜師範大学），袁広偉（中国曲阜師範大学）
- ・ 1AE4 日本の若者の国際競争力を涵養する学習環境の検証
—日本と海外の高校生の探究活動 3 年目—
清水義彦（富山県立大学）

■デジタルアーカイブによる多様な学び

デジタルアーカイブ研究会

8月24日(土) 10:00~12:00 F会場(17506教室)

コーディネーター: 井上透(岐阜女子大学), 前川道博(長野大学)

- ・1AF1 米国国立公文書館日本関連資料の活用について
熊崎康文(岐阜女子大学), 鈴木ひかり(岐阜女子大学)
- ・1AF2 デジタルアーキビストの育成
ーデジタルアーカイブによる多様な学びを支える人材ー
井上透(岐阜女子大学)
- ・1AF3 デジタルアーカイブを活用したデジタルアーキビスト教育
林知代(岐阜女子大学)
- ・1AF4 d-commons.net 利用による児童生徒の地域学習の包摂的支援
前川道博(長野大学)

■AIと教育ー生成AIの指導と活用を中心にー

「AIと教育」研究会

8月24日(土) 10:00~12:00 G会場(17507教室)

コーディネーター: 加納寛子(山形大学), 野末俊比古(青山学院大学)

- ・1AG1 AIの活用による学習者に最適化した対話型文献探索システムの評価
ー「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクトの成果と展望ー
野末俊比古(青山学院大学), 越前谷直之(富士通),
鈴木祐介(富士通 Japan), 正司和寛(富士通 Japan),
竹内祐喜(富士通 Japan), 本田政爾(富士通 Japan),
小島梨紗(富士通 Japan), 前彩佳(富士通 Japan)
- ・1AG2 AIを活用した教育に関する研究ー学びの方向性と方法と評価ー
鈴木秀顕(松蔭大学)
- ・1AG3 中学校数学科におけるAIを活用した授業実践
ー第1学年の内容「ヒストグラムの必要性和意味」ー
今澤宏太(大阪教育大学附属天王寺中学校)
- ・1AG4 「教科書は雑誌化する」という仮説のAIを用いた検証と未来の教科書の試作
竹内俊彦(駿河台大学)
- ・1AG5 MDASH リテラシーモデルに基づく効果的なAI学習教材の開発
福田美誉(関西国際大学), 保本正芳(近畿大学),
原田ゆかり(ワークアカデミー)
- ・1AG6 AIリテラシー指導のためのTPACKフレームワーク
加納寛子(山形大学)

■AI&DX時代のプログラミング教育の在り方

プログラミング教育研究会

8月24日(土) 10:00~12:00 H会場(17508教室)

コーディネーター: 山本利一(埼玉大学), 小熊良一(群馬大学)

- ・1AH1 動画を活用したプログラミング教材の開発課題について
—プログラミング体験講座の実践事例と受講者アンケートから見える今後の課題—
新垣さき(沖縄女子短期大学), 比嘉勇太(沖縄女子短期大学),
大森洋介(ツクル)
- ・1AH2 高等学校のプログラミング学習におけるPC使用学習と非使用学習についての生徒の学習感の比較
大井良知(大阪府立千里高等学校)
- ・1AH3 学校と地域企業とが連携して行うプログラミング教育に関する可能性と課題—小学校プログラミングクラブでの実践事例をもとに—
井上彩里(JMC), 龍田幸治(ソルクリエイト), 山崎雄一(ソルクリエイト),
斎藤拓紀(和光市立広沢小学校), 土井治武(和光市立広沢小学校),
曾布川琉行(和光市立広沢小学校)
- ・1AH4 身体表現活動を通じた小学校低学年のプログラミングに関する授業実践と評価
池田周登(埼玉大学), 山本利一(埼玉大学)
- ・1AH5 プログラミングによるフィードフォワード制御学習に関する教育内容の考察—植物工場の計測・制御技術を題材としたプログラミング学習—
山本利一(埼玉大学), 関倫太郎(埼玉大学), 池田周登(埼玉大学)

課題研究発表〔二日目〕(8月25日(日) 9:30~12:00)

■これからの時代の教育資料の構築と活用について

教育資料研究会

8月25日(日) 9:30~12:00 A会場(17501教室)

コーディネーター: 成瀬喜則(富山大学), 又吉斎(沖縄女子短期大学)

- ・2AA1 メタバースに作った「沖縄の学習・観光の部屋」を活用した小学校社会科等での一試行
左高結衣(岐阜女子大学), 青木稀愛(岐阜女子大学), 小橋川樹里,
平安山真衣奈(岐阜女子大学), 名嘉真美結, 横山隆光(岐阜女子大学)
- ・2AA2 教員の授業改善を支援するための協働的な研修モデルの開発
成瀬喜則(富山大学), 長谷川春生(富山大学), 林誠一(富山大学)
- ・2AA3 日本語教育におけるメタバースを利用した多言語教材活用の効果
上原もとみ(岐阜女子大学), 加治工尚子(岐阜女子大学),
横山隆光(岐阜女子大学)
- ・2AA4 教育DX時代における教育リソース並びにe-Learningの構成(2)
久世均(岐阜女子大学), 齋藤陽子(岐阜女子大学)

- ・ 2AA5 教授技術向上のためのマイクロティーチング手法
—教職教育用 e ラーニング教材開発に関する一考察—
又吉斎（沖縄女子短期大学）
- ・ 2AA6 在籍学級での日本語指導を要する児童自らの学級活動参加に関する事例研究
—群馬県伊勢崎市での調査から—
篠崎真衣（岐阜女子大学）
- ・ 2AA7 子ども読書活動推進計画における課題と展望に関する考察
石川敬史（十文字学園女子大学）
- ・ 2AA8 特別支援教育におけるメタバースを活用した海洋教育の一試行
阿部奈緒美（岐阜女子大学）、眞喜志悦子（岐阜女子大学）、
横山隆光（岐阜女子大学）

■特別支援教育の「近未来」の学びの姿とその本質 特別支援教育 AT 研究会

8月25日（日）9:30～12:00 B会場（17502 教室）

コーディネーター：新谷洋介（金沢星稷大学）、
織田晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）

- ・ 2AB1 特別支援学校を対象とした入出力支援装置の整備・運用に関する調査
新谷洋介（金沢星稷大学）、金森克浩（帝京大学）、大井雅博（帝京大学）
- ・ 2AB2 特別な配慮を必要とする児童・生徒への指導・支援のための教育情報に関する研究 3
—47 都道府県教育委員会発信情報に関する Web 調査から—
太田容次（京都ノートルダム女子大学）
- ・ 2AB3 特別支援教育におけるプログラミング教育の研究動向について
—プログラミング教育推進のための方策の検討に向けて—
織田晃嘉（国立特別支援教育総合研究所）
- ・ 2AB4 重度障害児の視線入力装置導入に関する考察
金森克浩（帝京大学）、伊藤史人（島根大学）、福島勇（熊本高等専門学校）、
新谷洋介（金沢星稷大学）、大井雅博（帝京大学）、
和久田高之（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
- ・ 2AB5 特別支援を要する児童・生徒を対象としたデジタルものづくり・STEAM 教育
の実践
佐藤正直（北海道教育大学札幌校）

■AI/DX 時代の大学を支える IR の探求 IR 研究会

8月25日（日）9:30～12:00 C会場（17503 教室）

コーディネーター：白鳥成彦（東京都市大学）、今井匠太朗（東京工業大学）

- ・ 2AC1 IR 実務者育成コースのスキルセットとプログラムの一考察
—IR 担当人材調査から—
井芹俊太郎（神田外語大学）、大石哲也（九州工業大学）、

- 近藤伸彦（東京都立大学），高松邦彦（東京工業大学），松本清（東京工業大学）
- ・ 2AC2 本質的 IR 人材育成カリキュラム策定に資する発展的調査の設計
—講習会開催方法と調査内容を考慮して—
大石哲也（九州工業大学），西出崇（小樽商科大学）
 - ・ 2AC3 教学マネジメント指針からみた学生調査の位置づけ
松本清（東京工業大学），高松邦彦（東京工業大学），
今井匠太朗（東京工業大学），稲倉恒法（東京工業大学），
森雅生（東京工業大学）
 - ・ 2AC4 大学の内部質保証の取組における課題と促進方策のあり方
—3 巡目の機関別認証評価の評価結果を基に—
高田英一（神戸大学）
 - ・ 2AC5 大学の第三者評価報告書における IR 概念の位置付けに関する分析
石井雅章（神田外語大学），松田岳士（東京都立大学），杉原亨（淑徳大学），
姉川恭子（北九州市立大学）

■「近未来」の学びを支える ICT を活用した教育

ICT 活用研究会

8月25日（日）9:30～12:00 D会場（17504 教室）

コーディネーター：坂井岳志（世田谷区立八幡小学校），
鍋谷正尉（渋谷区立千駄ヶ谷小学校）

- ・ 2AD1 最適化問題で量子アニーリングマシンを教室に
—スプレッドシートのソルバーから量子アニーリングマシンへ—
室谷心（松本大学）
- ・ 2AD2 分析ソフト College Analysis —開発の経緯と今後の展望—
福井正康（福山平成大学），奥田由紀恵（福山平成大学），
細川光浩（福山平成大学）
- ・ 2AD3 協働的に学びを深めるための教材活用の実践
—GIGA 端末と白板ソフト等を活用して—
片柳木ノ実（調布市立若葉小学校），虻川学（調布市立若葉小学校）
- ・ 2AD4 白板ソフトを使った教材開発 —ブラウザで動く教材とその開発方法—
坂本勝（マイクロブレイン）
- ・ 2AD5 生成 AI を活用した自主学習の展開 —Scrapbox や白板ソフトを利用して—
坂井岳志（世田谷区立八幡小学校）

■AI 時代における教育・研究のグローバル化の在り方を模索する

—「近未来」を見据えたグローバル人材育成に向けて—

グローバル教育研究会

8月25日（日）9:30～12:00 E会場（17505 教室）

コーディネーター：清水義彦（富山県立大学），陳那森（関西国際大学）

- ・ 2AE1 宿泊産業で働く外国人労働者の動向について
—コミュニケーション能力の育成を中心に—
総田はるみ（横浜商科大学）

- ・ 2AE2 Visualization Research on Global Educational Technology Studies Based on Knowledge Graph Construction
BAO Huricha (Yangzhou University), 陳那森 (関西国際大学)
- ・ 2AE3 Research on Factors Influencing Study Abroad Among Chinese Undergraduate Students
ZHANG Panpan (Yangzhou University), LIXinye (Yangzhou University)
- ・ 2AE4 大学生のスマートデバイスを活用した学習活動の現状と展望
陳那森 (関西国際大学), 山下泰生 (関西国際大学)

■学校における「近未来」の学びの姿とその本質

教育技術研究会

8月25日(日) 9:30~12:00 F会場(17506教室)

コーディネーター：佐藤典子(甲子園大学),
治京玉記(大阪人間科学大学)

- ・ 2AF1 1人1台のパソコン使用による郷土料理を題材とした授業の実践
佐藤典子(甲子園大学)
- ・ 2AF2 統計的な問題解決に向けた図解表現によるデータサイエンス教育(2)
納庄聡(大阪教育大学), 若杉祥太(大阪教育大学)
- ・ 2AF3 野外調査(巡検)を軸にした「身近な地域の調査」の授業実践に関する考察
一対象地域を学校周辺から自宅等周辺, 膳所城下町に広げて—
奥村信夫(滋賀大学教育学部附属中学校)
- ・ 2AF4 ポピュラー音楽演奏教育における解剖学との学際的融合の実践と展望
加茂文吉(玉川大学), 山本篤(日本音楽家機能解剖学指導者協会),
中村綾香(足立慶友整形外科脊椎関節病院)
- ・ 2AF5 カルタ制作を通じた学校間・世代間・社会連携プロジェクト
三田薫(実践女子大学), 及川麻衣子(山野美容芸術短期大学)
- ・ 2AF6 栄養教諭養成における『学校の安全と地域連携』の授業改善に向けて
泉廣治(甲子園大学)
- ・ 2AF7 ICT活用による外国人技能実習生を対象とした異文化コミュニケーションの
実施報告
治京玉記(大阪人間科学大学), 本田航平(SocialArk),
黒川マキ(大阪学院大学), 佐藤典子(甲子園大学), 林徳治(芦屋大学)

一般研究発表（8月25日（日）9:30～12:00・13:00～16:00）

■情報教育（1）

8月25日（日）9:30～12:00 G会場（17507教室）

座長：藤巻貴之（目白大学），田中聖華（横浜商科大学）

- ・2AG1 学生の文章生成 AI に対するイメージ
—生成 AI サービス公開初期段階における学生の捉え方—
藤巻貴之（目白大学），立野貴之（玉川大学）
- ・2AG2 学校現場における教育データ利活用に向けた教職員の資質能力に関する検討
古川健（大阪教育大学大学院），若杉祥太（大阪教育大学大学院）
- ・2AG3 韓国における人工知能融合教育 —韓国の 2022 教育課程を中心に—
宋赫（大阪教育大学大学院），若杉祥太（大阪教育大学大学院），納庄聡（大阪教育大学）
- ・2AG4 石門心学と商人倫理 —『都鄙問答』を中心として—
池田聡（芦屋大学）
- ・2AG5 大学における ICT を活用した書道教育の可能性と課題
田島萌乃（相模女子大学），穂苺真里子（日本書道美術院）
- ・2AG6 長時間インタビューの生成 AI 等による分析
—探究学習を視察した大学生のインタビューから—
山崎宣次（仙台白百合女子大学），羽野ゆつ子（大阪成蹊大学），
井藤元（東京理科大学）
- ・2AG7 大学情報教育（主に初年次）における情報活用能力と非認知的能力との関係
山本美紀（松蔭大学）
- ・2AG8 PySimpleGUI を活用した大学のオフライン個人認証システムに関する考察
金宰郁（松蔭大学），立野貴之（玉川大学）
- ・2AG9 インターンシップが学生の役割遂行行動と就労観に及ぼす影響についての—
考察—
—インターンシッププログラムにおける就業体験の有無による比較—
田中聖華（横浜商科大学），榎本真俊（横浜商科大学）

■教育方法

8月25日（日）13:00～16:00 A会場（17501教室）

座長：鬼木一直（東京富士大学），藤本光司（芦屋大学）

- ・2PA1 子どもをやる気にさせる算数の学習法 —日常生活における算数の活用—
鬼木一直（東京富士大学）
- ・2PA2 小学生を対象としたビデオゲームを用いたプロジェクトベース型 STEAM 活動の構想
Carlot Charline（兵庫教育大学），哲也阪東（鳴門教育大学）

- ・ 2PA3 モニタリング能力の育成に関する調査とその考察
—STEAM 教育とスポーツ活動時の調査より—
中嶋秀 (芦屋大学), 安東茂樹 (芦屋大学)
- ・ 2PA4 エネルギー問題を題材としたディベート学習を支援する AI の活用に関する提案
池田周登 (埼玉大学), 山本利一 (埼玉大学), 北畠謙太郎 (メディアファイブ)
- ・ 2PA5 STEAM 教育推進のための情報提供の在り方
桜庭望 (八洲学園大学)
- ・ 2PA6 学習資源センターとしての図書館における基礎的要件
—カリキュラムを支援するためのモデルづくりに向けた予備的考察—
野末俊比古 (青山学院大学)
- ・ 2PA7 探究的な学習を進めるために学習者自身が期待する環境
—高校卒業者を対象とする調査を通して—
登本洋子 (東京学芸大学), 齋藤玲 (東北大学), 堀田龍也 (東京学芸大学)
- ・ 2PA8 小規模大学の特徴を活かした IR 活動の課題と展望 (2)
—正課外活動や学生生活が GPA に与える要因について—
藤本光司 (芦屋大学), 高倉弘士 (芦屋大学)

■教材開発

8月25日(日) 13:00~16:00 B会場(17502教室)

座長: 細川光浩(福山平成大学), 吉井直子(奈良女子大学)

- ・ 2PB1 College Analysis への機能追加 —ダミー変数処理, 正確確率検定など—
細川光浩(福山平成大学), 奥田由紀恵(福山平成大学),
福井正康(福山平成大学)
- ・ 2PB2 College Analysis への機能追加 —実験計画法と多重比較—
福井正康(福山平成大学), 宗像智仁(福山平成大学), 青木麟太郎(福山平成大学),
松本陽子(福山平成大学)
- ・ 2PB3 中学校社会科における単元「身近な地域の調査」の授業実践
—地域(校区)の歴史的事象を取り上げた教材開発—
奥村信夫(滋賀大学教育学部附属中学校),
森康夫(滋賀県守山市立守山南中学校)
- ・ 2PB4 動画教材の文脈を考慮したチャプター毎のアノテーションの自動生成
岸康人(高知学園短期大学), 立野貴之(玉川大学),
來栖正博(高知学園短期大学)
- ・ 2PB5 VR 保護室疑似体験による没入感の比較
—VR ゴーグルとタブレットのメリット・デメリット—
川下貴士(松蔭大学), 小野坂益成(松蔭大学), 丸山昭子(松蔭大学),
福井英理子(東邦大学), 立野貴之(玉川大学)
- ・ 2PB6 VR 身体拘束を疑似体験教材の試作についての考察
小野坂益成(松蔭大学), 川下貴士(松蔭大学), 立野貴之(玉川大学),

- 丸山昭子（松蔭大学），長嶋祐子（駒沢女子大学），福井英理子（東邦大学）
- ・ 2PB7 大学での ICT 活用を促進している LMS 稼働率をコロナ禍前後で比較する
奥田由紀恵（福山平成大学）
 - ・ 2PB8 保育者養成における事故防止対策の実感的学習教材開発に向けて
—動画コンテンツを用いた学習システムの開発—
大沢裕（松蔭大学），奥田由紀恵（福山平成大学），立野貴之（玉川大学），
野末晃秀（松蔭大学）
 - ・ 2PB9 トランプゲーム「エリュシス」を用いた非認知的能力測定の試み
若山昇（淑徳大学），草山太一（帝京大学），竹内俊彦（駿河台大学），
館秀典（駿河台大学），立野貴之（玉川大学）
 - ・ 2PB10 大学教育における PBL の分析と課題
吉井直子（奈良女子大学）

■教育実践（1）

8月25日（日）13:00～16:00 C会場（17503教室）

座長：大杉成喜（皇學館大学），加藤亮介（日本大学）

- ・ 2PC1 中学生のドローンプログラミング実践の成果と課題
大杉成喜（皇學館大学），吉田康人（皇學館大学），
義積翔（神戸市立丸山中学校）
- ・ 2PC2 体育大学のコンテンツを活かした初等中等教育での保健及び体育授業の支援
石出勉（東京女子体育大学），高柳佐土美（東京女子体育大学），
豊岡弘敏（東京女子体育大学）
- ・ 2PC3 児童の主体的な学びを促す授業の設計
～プロトタイピング手法を活用した探求型授業の設計～
長坂京平（大田区立梅田小学校），高俊哉（大田区立梅田小学校），
石出勉（東京女子体育大学）
- ・ 2PC4 児童の主体的な学びを促す授業の設計
～プロトタイピング手法を活用した探求型授業の展開～
金高俊哉（大田区立梅田小学校），長坂京平（大田区立梅田小学校），
石出勉（東京女子体育大学）
- ・ 2PC5 日本語学習の支援教材に関する実践
—日本語を母国語としない学習者の主に文字学習を中心として—
河野文子（筑波大学附属桐が丘特別支援学校）
- ・ 2PC6 シミュレーション技術を活用したものづくり教育の提案
—CAD・CAMによるシミュレーションの活用—
久保田久和（東京学芸大学），山本利一（埼玉大学），坂本智（横浜国立大学）
- ・ 2PC7 AIと宇宙入門疑似体験の実践
—脳の仕組みから学ぶAI，ワークショップで広がる宇宙—
坂本保代（マイクロブレイン），公文美貴（愛知県常滑市立大野小学校），
坂本勝（マイクロブレイン）

- ・ 2PC8 社会福祉教育を通じた職業理解
—管理栄養士養成課程の学生調査を通して—
伊達諒（高知学園短期大学）
- ・ 2PC9 芸術大学における産学連携型授業モデルの構築と評価
—知的財産の協同創造プロジェクトを事例として—
加藤亮介（日本大学），片桐祥太（日本大学），沼田真明（テレビ朝日）

■教育実践（2）

8月25日（日）13:00～16:00 D会場（17504教室）

座長：石野邦仁子（淑徳大学），立野貴之（玉川大学）

- ・ 2PD1 Google Classroom のツールを活用した授業改善の試みと課題
—高等学校の情報教育内容の変化との関連—
石野邦仁子（淑徳大学），松山恵美子（獨協大学）
- ・ 2PD2 小学校音楽科「即興的な表現」を充実させるための ICT を活用した学習活動の検討
福多朝子（宇都宮市立御幸が原小学校），長井映雄（鳴門教育大学），
阪東哲也（鳴門教育大学）
- ・ 2PD3 整備士養成過程におけるアイトラッキングの活用
—学習と整備能力に関する考察—
成瀬優享（芦屋大学），野口聡（芦屋大学）
- ・ 2PD4 心理検査データを用いた大学生の退学確率導出の試み
—機械学習の手法による高度分析—
松岡亮輔（トワール），若杉祥太（大阪教育大学），濱野祐希（トワール）
- ・ 2PD5 大学院生の職能開発プログラムの開発 —プレ FD 努力義務化の影響と課題—
宮浦崇（九州工業大学）
- ・ 2PD6 チャットボットを活用した新たな読書習慣の涵養
—社会教育の場におけるアブダクションアプローチを用いて—
船岡佳生（日本リベラルアーツ協会）
- ・ 2PD7 高校「情報 I」プログラミングの工夫
—おもしろいこと楽しいことをやって身につく工夫—
福島俊亮（埼玉県立松山高等学校），岡部建次（次世代研），
杉本範雄（埼玉県立上尾高等学校）
- ・ 2PD8 大学評価におけるレピュレーション指標の研究
後藤晃範（大阪学院大学），山口厚樹（立教大学），平井裕久（神奈川大学）
- ・ 2PD9 ビジネスゲーム学習中に誘発されたマルチタスクの視線特徴の分析
立野貴之（玉川大学），Madden Anthony（神田外語学院），若山昇（淑徳大学），
岡田工（東海大学），加藤由樹（相模女子大学），加藤尚吾（東京女子大学）

■デジタルアーカイブ・学習評価

8月25日(日) 13:00~16:00 E会場(17505教室)

座長: 町英朋(常磐大学) 及川浩和(岐阜協立大学)

- ・2PE1 デジタルアーカイブにおけるデジタルデータの真正性と唯一性に関する考察
町英朋(常磐大学)
- ・2PE2 沖縄戦体験の記録と継承の課題 2 ―北部地域の証言記録から―
加治工尚子(岐阜女子大学)
- ・2PE3 都道府県における図書館の位置付けに関する一視点
中岡貴裕(和光市教育委員会)
- ・2PE4 科目レベルにおける学修成果の把握・可視化についての一考察
―ルーブリック評価と授業評価などの学修成果の把握・可視化の多様性について―
白川雄三(大阪学院大学), 金崎暁子(大阪学院大学)
- ・2PE5 タブレットPCを活用した小学校6年理科の豊かな学びの実践と評価
―ルーブリックを活用した主体的学びの支援―
埴岡靖司(岐阜県山県市立梅原小学校), 臼井悠一(岐阜大学),
及川浩和(岐阜協立大学), 山崎宣次(仙台白百合女子大学)
- ・2PE6 小学6年理科の豊かな学びの評価尺度を用いた分析 ―主体的学びの評価―
及川浩和(岐阜協立大学), 埴岡靖司(岐阜県山県市立梅原小学校),
臼井悠一(岐阜大学), 山崎宣次(仙台白百合女子大学)

■情報教育(2)

8月25日(日) 13:00~16:00 F会場(17506教室)

座長: 加藤由樹(相模女子大学), 加藤尚吾(東京女子大学)

- ・2PF1 LINEの返信の待ち時間とネガティブ感情の喚起の関係
―年代別の特徴の分析―
加藤由樹(相模女子大学), 加藤尚吾(東京女子大学),
竹内俊彦(駿河台大学), 立野貴之(玉川大学)
- ・2PF2 我が国の新学習指導要領後における情報教育の国際比較
―日・米・インドネシアの中・高生の意識と知識調査による考察―
本村猛能(日本工業大学), 雨野暉(Sand Creek Community Schools),
横山駿也(飯能市立飯能第一中学校), 小熊良一(群馬大学),
工藤雄司(茨城大学), 齋藤佳久(ふじみ野市立大井中学校),
Saida Ulfa(マラン大学), 角和博(佐賀大学)
- ・2PF3 デジタルネイティブ世代の児童への著作権教育の授業実践
―デジタルシティズンシップの考えを取り入れた著作権教育―
小熊良一(群馬大学)
- ・2PF4 中学校技術科における学習の系統性を踏まえたプログラミング教材の開発
―日・米・インドネシアの中・高生の意識と知識調査に基づく題材の検討―

- 横山駿也（飯能市立飯能第一中学校），本村猛能（日本工業大学），
小熊良一（群馬大学），工藤雄司（茨城大学）
- ・ 2PF5 計測・制御教材による体系的な情報教育の提案
工藤雄司（茨城大学），本村猛能（日本工業大学），
横山駿也（飯能市立飯能第一中学校）
 - ・ 2PF6 DNA は四進法！ DNA 目付字で促す遺伝情報の理解
—DNA の遺伝情報を数理で紐解き，好奇心をくすぐる教材開発—
跡部弘美（九州地区高大接続生物教育研究会）
 - ・ 2PF7 PISA2022ICT 調査における我が国の位置づけ
豊福晋平（国際大学 GLOCOM）
 - ・ 2PF8 中学生のスマホ使用およびリスク経験からみた情報リテラシー教育の課題考察
村川修一（藤田医科大学），藤江里衣子（藤田医科大学）
 - ・ 2PF9 LINE グループのメンバーの違いによる返信タイミング
加藤尚吾（東京女子大学），加藤由樹（相模女子大学），立野貴之（玉川大学），
竹内俊彦（駿河台大学）

■情報教育（3）

8月25日（日）13:00～16:00 G会場（17507教室）

座長：山本朋弘（中村学園大学），野口聡（芦屋大学）

- ・ 2PG1 児童の AI プログラミングに関する学習支援システムの開発
山本朋弘（中村学園大学）
- ・ 2PG2 高大接続を想定した大学における情報教育でのプログラミングに関する授業
の在り方の検討
森岡真弥（中村学園大学），山本朋弘（中村学園大学），野口太輔（中村学園大学）
- ・ 2PG3 小学校からのプログラミング教育へのライフタイム・マネジメント手法の導入
佐藤稔（次世代研），福島俊亮（埼玉県立松山高校），岡部建次（次世代研）
- ・ 2PG4 おもしろく・楽しいプログラミング教育の研究
—エクセル・シート上を動き回る自律型エージェントアプリの作成—
岡部建次（次世代研），福島俊亮（埼玉県立松山高等学校），佐藤稔（次世代研）
- ・ 2PG5 文系大学生における AI に関する素養についての一考察
—G 検定の学習項目を用いた理解度調査の結果から—
相澤崇（都留文科大学）
- ・ 2PG6 短期大学生のアテンションエコノミーに関する調査
阿久津毅（昭和学院短期大学）
- ・ 2PG7 生成 AI を用いた情報セキュリティ教育の実践
増山一光（神奈川県立相原高等学校）
- ・ 2PG8 学校技術分野における「D: 情報の技術」における（1）アの情報技術の原理・
法則の教育目標の明確化
林泰子（芦屋大学），野口聡（芦屋大学），藤本光司（芦屋大学），
安東茂樹（芦屋大学）

- ・ 2PG9 中学校技術分野における「D: 情報の技術」における (1) イの問題解決の教育目標の明確化
野口聡 (芦屋大学), 林泰子 (芦屋大学), 安東茂樹 (芦屋大学),
藤本光司 (芦屋大学)

■オンライン

8月25日(日) 13:00~16:00 オンライン

座長: 呉亜矢 (大阪学院大学), 宮崎幸弘 (松山聖陵高等学校)

- ・ 2PH1 汎用的能力に関する学修成果の経年比較分析
—3年次生を対象とする5年分の成長実感調査結果から—
呉亜矢 (大阪学院大学), 白川雄三 (大阪学院大学), 金崎暁子 (大阪学院大学)
- ・ 2PH2 Digital Transformation による IR 推進の可能性
~Microsoft365 を活用した事例から~
大関智史 (宮崎大学), 藤川さとみ (宮崎大学), 久保田理絵 (宮崎大学),
松田愛菜 (宮崎大学), 中島琢哉 (宮崎大学)
- ・ 2PH3 情報系短大における「日本語表現法」の授業設計に関する実践研究
橋本恵子 (福岡工業大学)
- ・ 2PH4 高校生の問題解決能力に影響する個人特性の探索的検討
宮崎幸弘 (松山聖陵高等学校), 長井映雄 (鳴門教育大学),
阪東哲也 (鳴門教育大学)
- ・ 2PH5 持続可能なスマートシティ構想のための3次元建物の自動生成によるシミュレーション
村瀬孝宏 (中京学院大学), 杉原健一 (金沢大学)
- ・ 2PH6 発達障害に関する支援システムの構築について
山田章 (大阪学院大学), 白川雄三 (大阪学院大学), 金崎暁子 (大阪学院大学)

◆開催方法

- ・ 対面方式で実施します。ただし、一般研究発表の一セッションはオンライン開催です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策については、国等の方針に基づき、各自の判断とします。ただし、会場においては換気の実施や手指消毒の準備などを行う予定です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行やそれに準じる事態が発生した場合は、開催方式を変更する場合があります。

◆開催までの主な日程

原稿提出	2024年6月1日(土)～7月5日(金)
参加申込	2024年6月1日(土)～8月2日(金)
論文集郵送申込	2024年6月1日(土)～8月2日(金)

◆原稿提出方法

- ・ 原稿は、発表採択の方にお送りした要領ならびにフォーマットに従い、作成してください。年会ウェブページ内の「原稿作成方法」にも掲載されています。PDF形式に変換したのち、ウェブページの「各種申込み」の「原稿提出」フォームからご提出ください。提出期限は7月5日(金)深夜12時(厳守)です。
- ・ 提出するファイル名は発表コードとしてください。発表コードは、本ニュースレターのプログラムにおいて、発表タイトル前に記載されている半角英数字4桁です。
- ・ 発表申込み時のタイトル、発表者、所属など(本ニュースレターのプログラムに記載されているもの)から変更がある場合は備考欄に必ずその旨を記載してください。

◆発表会場で使用できる機器等

- ・ 各会場(教室)ではマイクおよびプロジェクターが使用可能です。
- ・ パソコンは各自で持参してください。なお、プロジェクターとの接続はHDMIおよびVGAによります。MacBookなどインタフェースがUSB-Cのみの場合などには、変換ケーブルを忘れずにお持ちください。

◆年会参加方法

- ・ 参加申込みは、下記まで参加費等の振込みを完了したのち、年会ウェブページ内の「各種申込み」の「参加申込」フォームを選択して参加手続きを行なってください。
振込先 銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：芦屋支店(483)
口座番号：普通 0171778
口座名義：日本教育情報学会年会企画委員会
- ・ 振込の名義は本人(参加申込者)としてください。大学ごとの団体・組織名の振込み(代理振込み)をされないようご注意ください。
- ・ 学会本部事務局への学会年会費の振込先と年会のための参加費・論文集費等の振込先は異なりますので、お間違いないようご注意ください。

◆各種費用

- ・ 会員(事前申込み)：参加費 3,000円 論文集費 4,000円 懇親会費 5,000円
- ・ 会員(当日)および非会員：参加費 4,000円 論文集費 4,000円
- ・ 会員(学生)および後援団体・協賛企業の方々：参加費無料 論文集費 4,000円
- ・ 課題研究と一般研究の両方で発表する場合も参加費は3,000円(または4,000円)です。

- ・ 学生（会員）、後援団体の教職員や協賛企業の方々は、参加費は無料です。ただし、発表者は参加費が必要です。

◆論文集の郵送申込（年会に参加されない方）

- ・ 年会に参加されない方で論文集を購入希望の場合は、上記振込先へ論文集代を振り込みのうえ、年会ウェブページ内「各種申込み」の「論文集郵送申込」フォームからお申込みください。年会終了後に論文集を送付します。
- ・ 論文集代金（郵送費等を含む）：4,500 円

◆懇親会

- ・ 懇親会会場：アイビーホール（IVY HALL）1階「茶珈堂」
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 アイビーホール 1階
<https://www.filia-aoyama.com/chacafedo.html>
- ・ 年会会場（17号館）から徒歩5分程度です。「会場アクセス」の地図をご参照ください。
- ・ 参加ご希望の方は事前申し込みをお願いします。申込後のキャンセル、当日の参加申し込みはできません。定員の都合上、期日より早めに締め切ることがあります。
- ・ 懇親会費：5,000 円（ブッフエスタイル、飲み放題付き）

◆昼食

- ・ キャンパス内の学生食堂およびコンビニエンスストアがありますが、夏期休暇中のため、営業時間は未定です。わかり次第、年会ウェブページなどで案内します。
- ・ 大学近隣にはコンビニエンスストアや飲食店（テイクアウトができるところを含む）は多くあります。ただし、昼食時間帯には混雑する場合があります。
- ・ 会場内で昼食を取る場合は、休憩室をご利用ください。

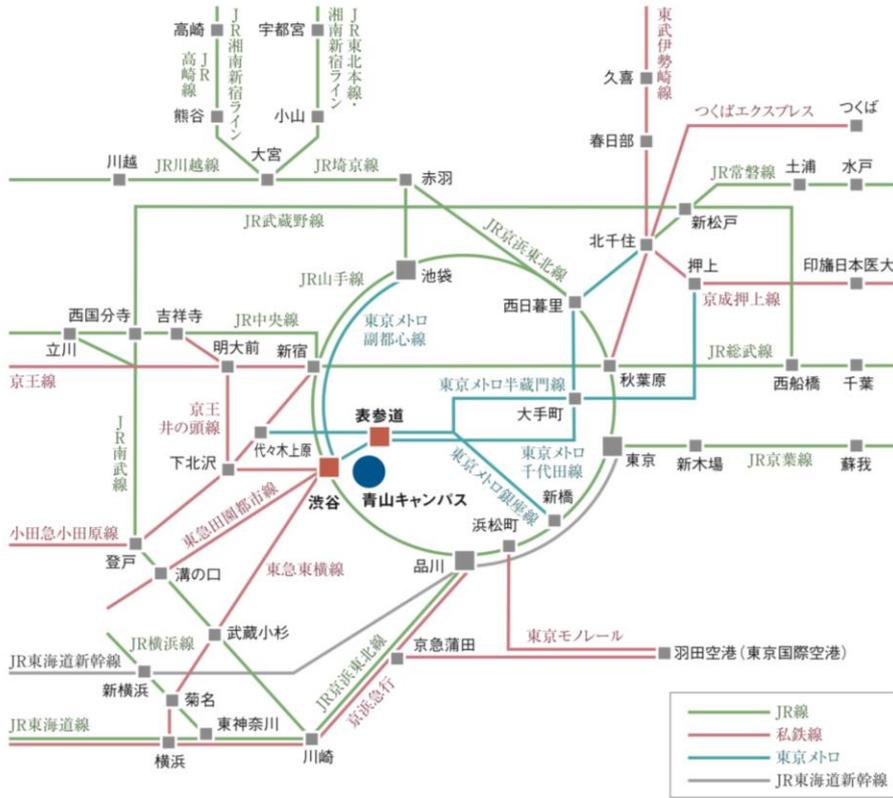
◆宿泊

- ・ 会場には宿泊施設はありません。宿泊については、各自でご手配ください。
- ・ 都内・近県にホテルは多数ありますが、いわゆるインバウンド拡大のため、混み合う場合があります。価格も上昇傾向にありますので、早めの手配をおすすめします。

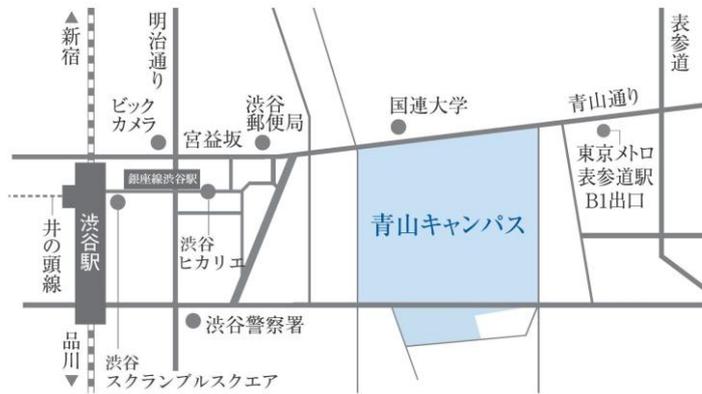
◆会場アクセス

- ・ 青山学院大学青山キャンパス：〒150-8355 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
交通アクセス：<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>
キャンパス地図：<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>
- ・ 青山キャンパスは、渋谷駅から徒歩約10分、表参道駅から徒歩約5分です。渋谷駅は工事のため、仮設通路が設置されている箇所があります。「青山学院大学」方面または「宮益坂」方面をめざしていただくとわかりやすいと思います。
- ・ 新幹線の場合は、東京駅または品川駅をご利用ください。東京駅から渋谷駅まではJR山手線で30分弱、品川駅からは15分弱です。
- ・ 空路の場合、羽田空港からは京急線で品川駅まで行き（最速の「エアポート特快」で15分弱）、JR山手線に乗り換えて渋谷駅に向かうのが便利です。
- ・ 会場に駐車場はありません。公共交通機関または周辺の有料駐車場をご利用ください。
- ・ 発表等の会場は大学17号館5階です。下記地図を参考になさってください。エレベーター・エスカレーターは、テラス・中庭付近から建物に入ったところにあります。5階へはエレベーター・エスカレーターをお使いください（階段もあります）。
- ・ 発表等の会場はすべて同じフロア（5階）です。各会場の場所については、フロアに掲示および当日配布の地図をご確認ください。
- ・ 懇親会の会場はアイビーホール（IVY HALL）1階にあるレストラン「茶珈堂」です。キャンパスから直接に行くことができません。いずれかの門から外に出て移動をお願いします。アイビーホール前の道路側から入場してください。

《近郊からの交通経路》



《渋谷駅・表参道駅からの道順》



《キャンパスマップ》



◆施設見学

- ・青山学院大学に昨年、オープンした「青学つくまなラボ」の見学を予定しています。詳細は決まり次第、年会ウェブページなどで案内します。
- ・青学つくまなラボ

<https://sites.google.com/view/tukumanalab/>

https://www.aoyama.ac.jp/post05/2023/news_20230519_01

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1
大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

E-mail: jsei@jsei.jp

HP: <http://jsei.jp/home/>